



令和7年5月30日
6月号 No.476
発行責任者
校長 西村 学徳
所在地 福生市熊川 623

持続可能な地域学習に向けて大切にしたいこと

校長 西村 学徳

6月の花といえば紫陽花。昇降口前の花壇の小さな紫陽花ももうすぐ素敵な花を咲かせてくれそうです。最近、5月末とは思えない暑さが続きました。今後、ますます暑くなることが予想されます。熱中症対策を徹底しながら教育活動を進めていきます。

さて、今年度、本校では感動体験・本物体験を特に重視した教育活動を推進しているところですが、その具体的な取組の1つが「充実した地域学習」です。地域に関連する体験学習を通して、この地域のよさに触れ、地域を愛し大切にする人、地域に主体的に関わる人に育ってほしいとの願いがあります。5月実施の取組を2つ紹介します。

1つ目は、4年生の「熊川分水探検隊」です。この学習では、「熊川分水に親しむ会」の方が、子供たちの分水調査の支援や分水についての講義をしてくださいました。今後、子供たちは調べ学習を進め、学んだことの発表会を行っていく予定です。まだ学習の半ばですが、4年生の子供たちからは、「地域の人から詳しく教えてもらえるのが嬉しい!」「地域の昔の写真を見て、今との違いを考えるのが楽しい!」との感想が上がっています。そして「熊川分水に親しむ会」の方からは「子供たちの豊かな発想に触れ、私たちも子供たちから学ぶことが多いです。子供たちと関わるのが楽しいです。」との嬉しいお話もいただきました。



2つ目は、3年生の学習です。3年生では今年度、福生市を代表する農作物である「落花生」の栽培を行います。先日、市の農業委員会の方が、畑の下準備のために来校され、荒地に近かった屋上の畑までも一気にきれいな畑へと変えてくださいました。当日は、3年生の子供たちも畑に行き、委員

の方々に元気に挨拶をしました。お帰りの際、委員の方が「あんなに一人一人の子供たちから挨拶や御礼を言われたら頑張らないわけにはいかないよなあ。」と笑顔でお話されていたことが印象的でした。また、ある方は、20年以上も前に二小の子供たちからもらったカイコの学習支援に対するお礼の手紙を見せてくださいました。20年経った今でも大事にしてくださっていることに、こちらが感激しました。



昨今、様々な分野で「持続可能な〇〇」という言葉をよく耳にしますが、学校教育や地域学習に関しても同様で、どのように「持続可能な」ものにしていくかは、大きな課題となっています。その際、今回の「熊川分水に親しむ会」「農業委員会」の方々がお話してくださったことには、持続可能な地域学習にしていく上での重要なヒントが隠されていると思いました。それは、学校に関わってくださる方々に、「子供たちの笑顔や成長に、直接触れてもらうこと」「子供たちから感謝の思いや言葉を伝えていくこと」を大切にすることです。そして、そのことは、子供たちが「自分たちを支えてくれる方々にどのように接したらよいか」を学ぶことにもつながっていくと思います。本校では、これからも地域学習の充実を図っていきます。そのためにも本校と地域が「Win Win」の関係で、地域の方に「学校に協力してよかった!」「また、協力したい!」と思ってもらえる二小でありたいと思います。